

① 申請者	◎山鹿市、玉名市 菊池市、和水町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
-------	---------------------	-------	--------------------------

③ タイトル
米作り、二千年にわたる大地の記憶 ～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～

④ ストーリーの概要（200字程度）

菊池川流域には、二千年にわたる米作りによる大地の記憶が残っている。
 平地には古代から受け継がれた条里、山間には高地での米作りを可能にした井手（用水路）と棚田、そして海辺には広大な耕作地を生み出した干拓。
 米作りを支えた先人たちによる土地利用の広がり、今も姿を留め、その全てをコンパクトに見ることができる。更に賑やかな祭りや豊かな食という無形の文化も息づくなど、菊池川流域は古代から現代までの日本の米作り文化の縮図であり、その文化的景観や米作りがもたらした芸能・食文化に出会える稀有な場所なのである。

〈菊池川流域の米作り 平地・山間・海辺の土地利用〉



平地：千年続く碁盤状の条里風景



山間：300年水を引く水路・原井手



山間：山鹿・蕃所地区の棚田

〈菊池川流域の町並み〉



海辺：5.2km 連なる旧玉名干拓施設

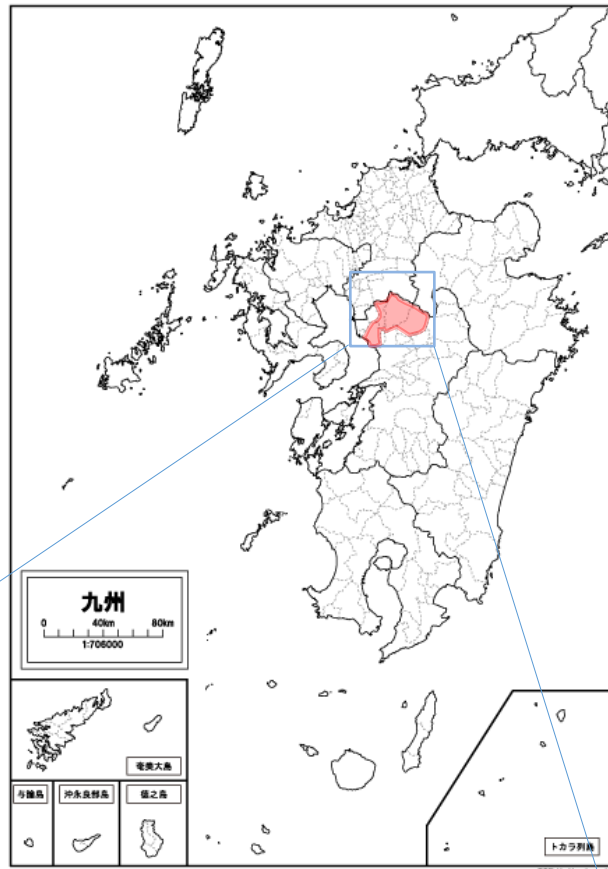


菊池川流域の町並み（八千代座）

⑤ 担当者連絡先

担当者氏名			
電話		FAX	
E-mail			
住所			

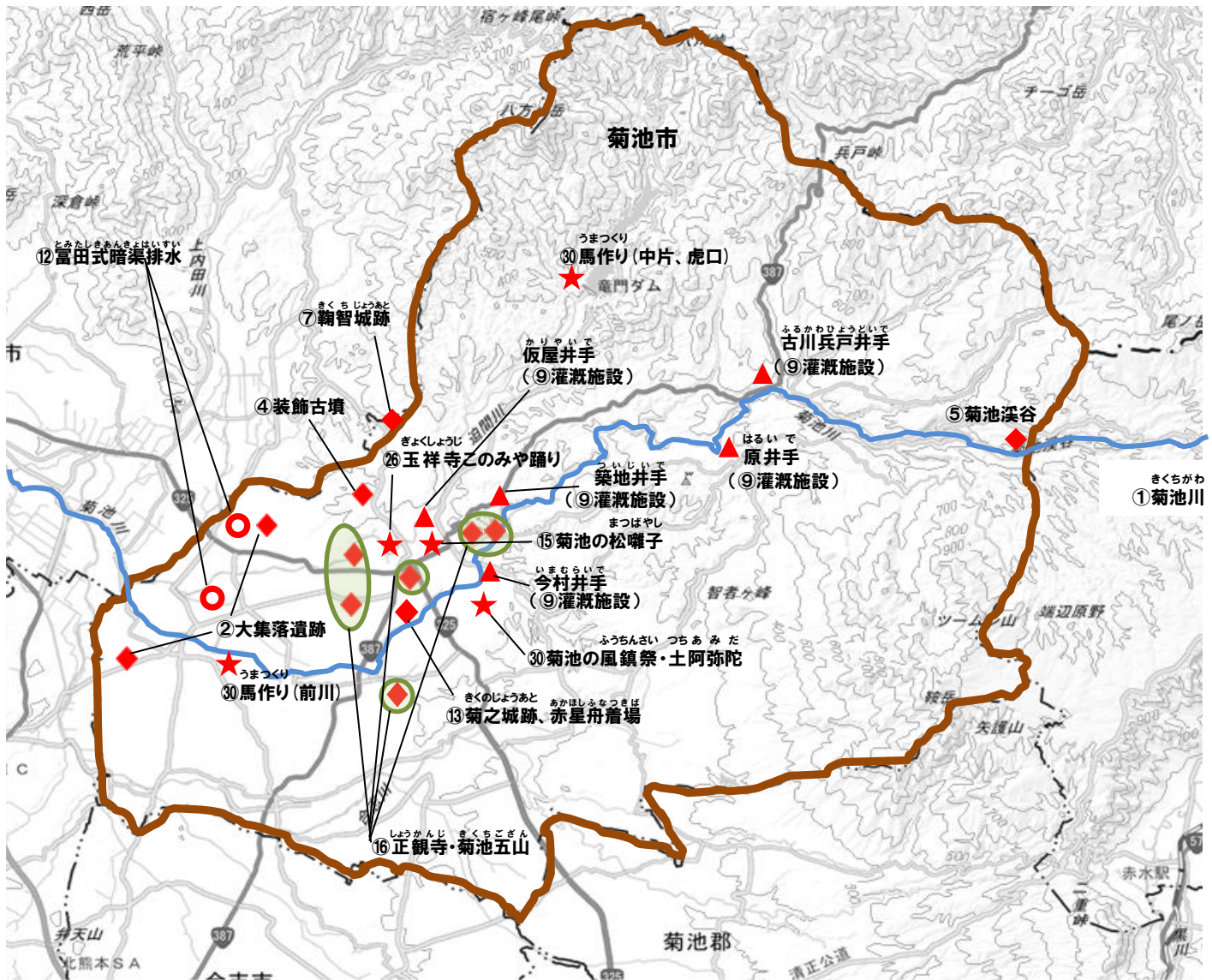
市町村の位置図（地図等）



構成文化財の位置図

1 菊池市

- ▲ 山間(井手・棚田) ○ 沼地(暗渠排水) ★ 無形文化財 ◆ その他



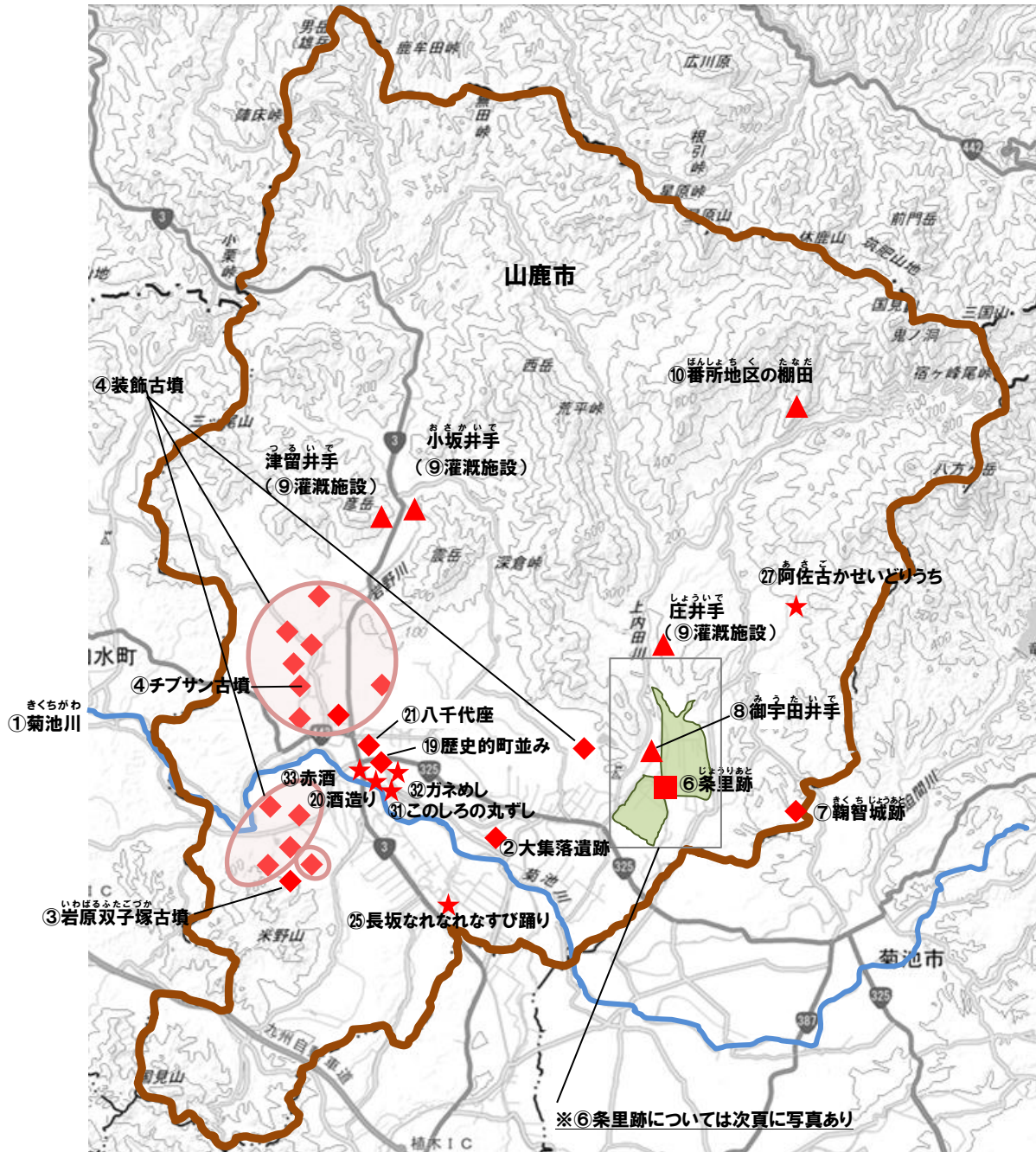
※菊池市全域を対象とするもの…「②肥後神楽」と「⑨菊池川流域の雨乞い習俗」

出典: 国土地理院ホームページ(<http://maps.gsi.go.jp/>)
地理院地図を加工して作成(以下頁の地図全て同じ)

構成文化財の位置図

2 山鹿市

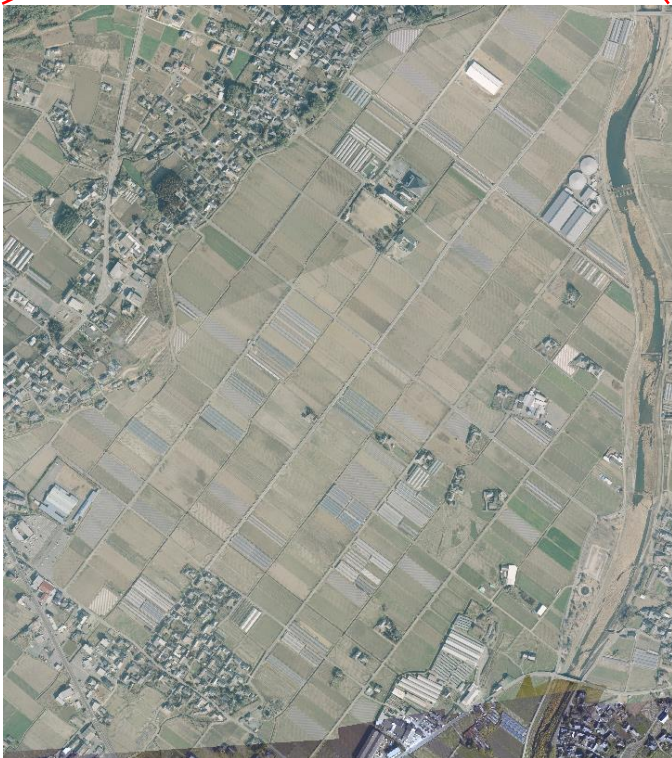
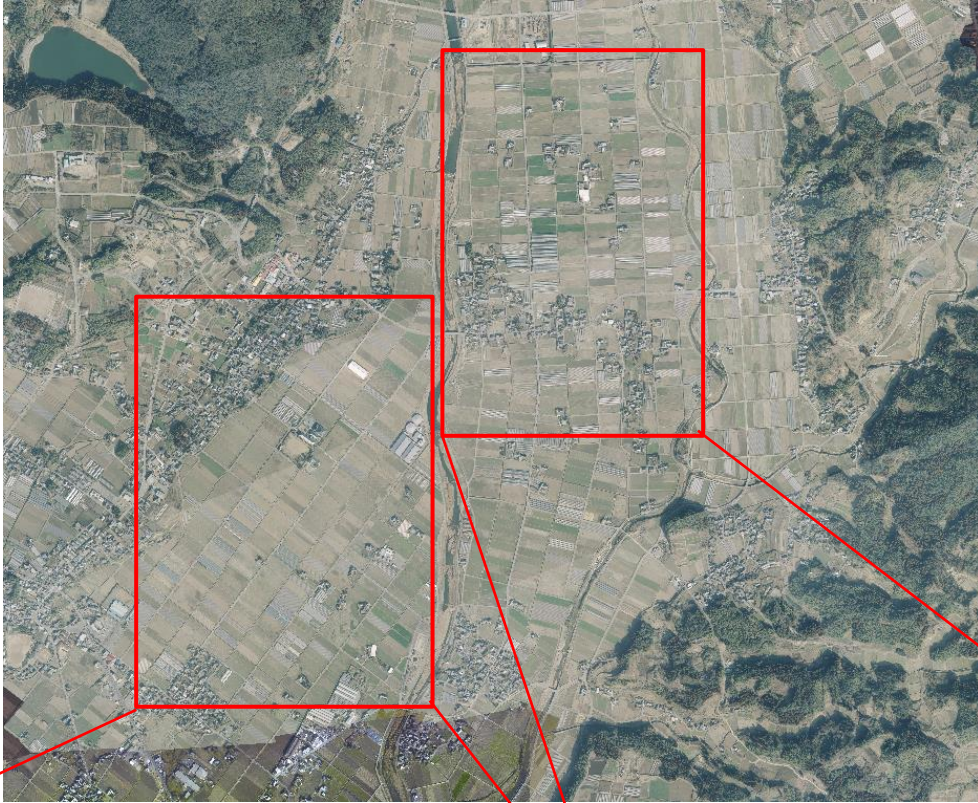
- 平地(条里) ▲ 山間(井手・棚田) ★ 無形文化財 ◆ その他



※山鹿市全域を対象とするもの…「⑲肥後神楽」と「⑳菊池川流域の雨乞い習俗」

構成文化財の位置図

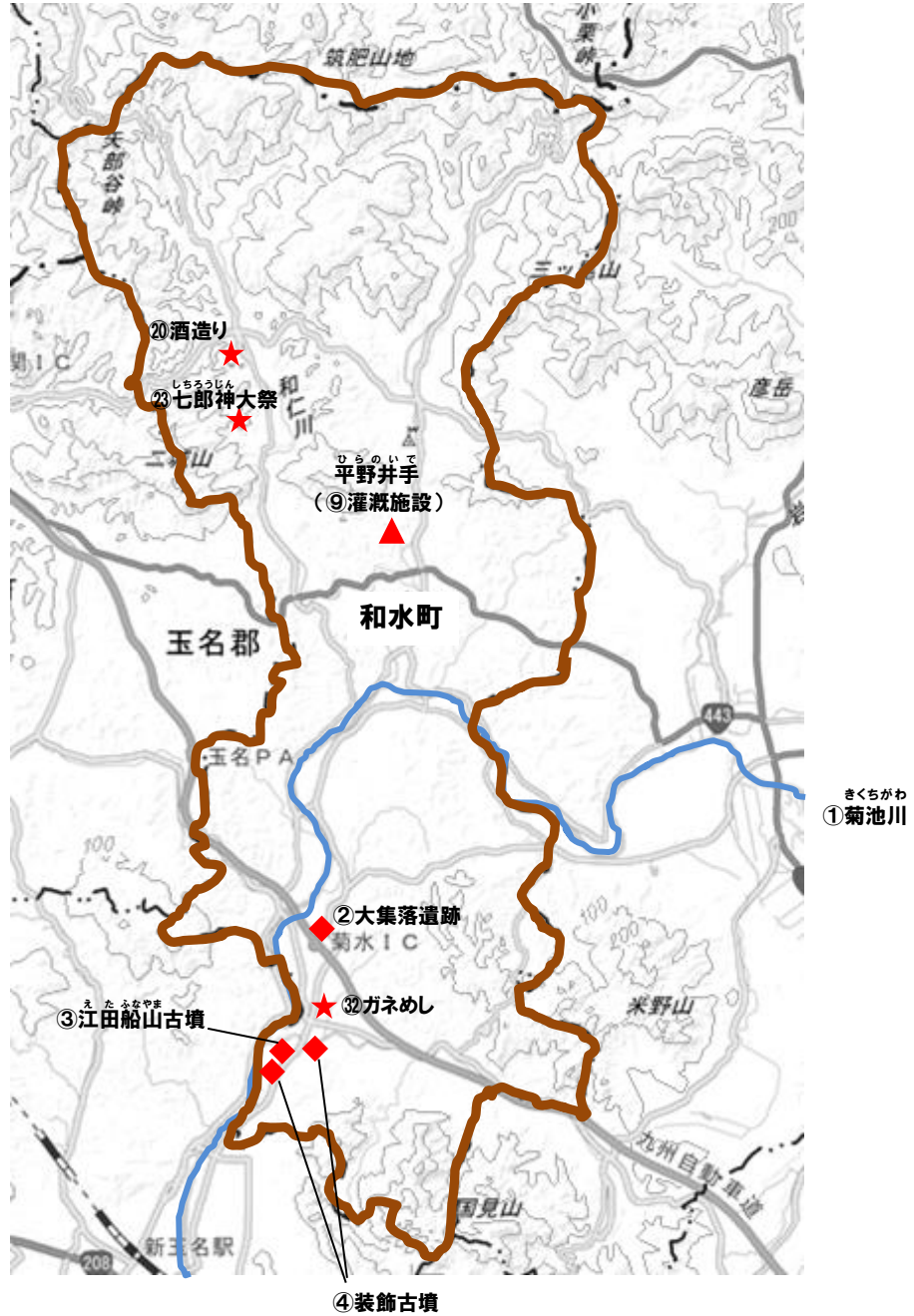
やまがし じょうりあと
(山鹿市 : 条里跡写真)



構成文化財の位置図

3 なごみまち 和水町

▲ いで 山間(井手・棚田) ★ 無形文化財 ◆ その他

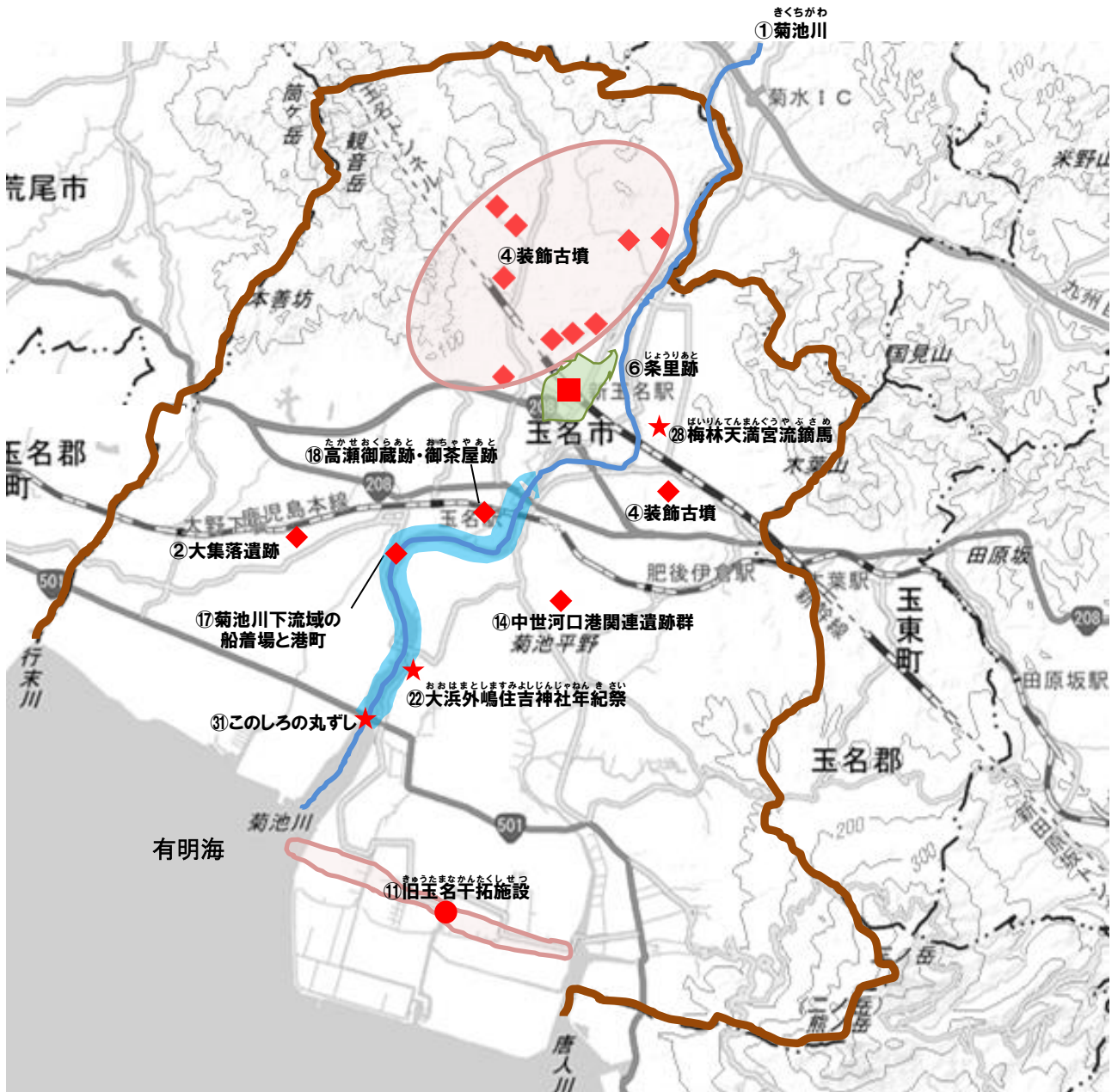


※和水町全域を対象とするもの…「②4肥後神楽」と「②9菊池川流域の雨乞い習俗」

構成文化財の位置図

4 玉名市

- 平地(条里) ● 海辺(干拓) ★ 無形文化財 ◆ その他



※玉名市全域を対象とするもの…「②4肥後神楽」と「②9菊池川流域の雨乞い習俗」

ストーリー

菊池川流域の米作りの曙

ほぼ全国的に米作りが行われるようになった弥生時代。熊本県北部の菊池川流域では、水を引きやすい川沿いの平坦な土地で米作りを始めた。その後、鉄製農具を利用して生産性を高め、米作りで豊かな土地となった。こうした豊かさが、豪華な副葬品が出土した「江田船山古墳」や絵画などの装飾が施された「チブサン古墳」など、多彩で豊かな葬送文化の誕生につながり、やがて高い技術力に支えられた菊池川流域の米作りの文化が幕を開けることとなる。



チブサン古墳

二千年にわたる米作りの開墾の歴史

菊池川流域は、阿蘇外輪山の菊池溪谷を源とする清らかでミネラル豊富な水に恵まれた地域である。約二千年前、最初は小さな水田から始まった米作りだったが、灌漑技術の導入により、8世紀頃から大規模な土地区画制度である「条里制」が全国各地に敷かれると、古代、菊池川流域の平地では一区画約1ha(10,000㎡)の水田が整備された。また、大和朝廷は米の豊かなこの土地の高台に古代山城「鞠智城」を築き、米倉を建てて軍事補給基地としての機能をもたせた。条里制の地割は時代が移り変わる中でも大きな改良を必要とせず、鞠智城跡を訪れると、碁盤状にきれいに区画された千年以上続く田園風景を一望できる。



平地：千年続く条里制跡の風景

中世以降、山間では、溜め池造成や水路建設などの農業土木技術の向上によって、菊池川流域でも井手(用水路)が整備され、それまで水が届かなかった高台を水田に変えた。江戸時代になると測量技術や土木技術が更に向上し、各地に長距離の井手を通された。全長11kmの「原井手」は、延べ454mものマブ(水路トンネル)を手作業で穿ち、水田を作るのが難しかった山地に棚田を拓き、米作りを可能にした。「原井手」は300年以上経った今も現役で、地域の棚田を潤している。番所地区の棚田は、急峻な山の斜面を切り拓き石積みを組んだものであるが、集落内の住宅等も石積みの上に築かれ、漆喰や泥壁等の伝統的な工法で建てられており、棚田をはじめ山里の自然と古い屋並みが調和した農村景観を見ることが出来る。



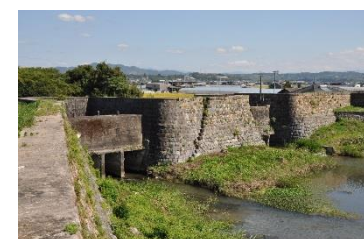
山間：原井手

近世以降、海辺では、築堤や樋門建設の技術が発達し干拓事業が続けられてきた。菊池川河口には広大な干潟があり、堤防を築いて潮止めすることで耕作地を開くことができた。その規模は年を追うごとに大きくなった。明治時代中頃には高さ3~6mの石積みが長さ5.2kmにも及ぶ、当時国内最大級の「旧玉名干拓施設」の堤防が築かれ、最終的には面積3,000haの耕作地が海から誕生した。「海の万里の長城」とも称されるこの堤防は、城の石垣のような様相で、近くに佇むと見る者を圧倒し、秋の収穫時には金色の稲穂と石積みの堤防群とが美しいコントラストを見せてくれる。



山間：山鹿・番所地区の棚田

近代に入ると菊池川沿いの沼地では、菊池市出身の農業技術者、富田甚平が私財をなげうって収穫期にも水が抜けなかった湿田を乾田に変える暗渠排水技術を開発した。同時に湿田から抜いた水を水田に活用する技術を開発して日照り対策も行い、この技術を全国に広めていった。

海辺：5.2km連なる旧玉名干拓施設の一部
すまひら東三枚戸樋門・すまひら西三枚戸樋門

菊池川流域の米作りの営みがもたらした豊かな文化

菊池川は水田を潤すだけでなく、米の輸送にも欠かせないものだった。11世紀頃から450年にわたる歴史の中で一時は九州を平定した菊池一族は、菊池川での米の輸送などで財を成し、安定した統治を行うことで米作りの発展に寄与した。江戸時代に入ると、菊池川の水運はますます重要となった。菊池川を下ると石垣で整備された「高瀬船着場跡」が見えてくる。菊池川流域の年貢米を集め、「俵ころがし」という石畳の斜面を使って船に米俵を載せ、大坂などに運んだ。

江戸時代、菊池川の舟着場と「豊前街道」が交差した山鹿湯町は、米問屋や麴屋、造り酒屋、米菓子屋など米を扱う商店が軒を連ね、活況を呈した。今でも酒蔵や麴屋などが商いを続けており、これらの町並みは訪れる人を楽しませている。また米問屋や造り酒屋などで財を成した商人達が出資して建てられた明治期の芝居小屋「八千代座」も、当時の賑わいに負けず、今も多くの歌舞伎役者や地元の人々に愛されており、往時の風情を堪能することができる。

菊池川流域では、田の神に豊作を祈るための様々な祭りや風習が受け継がれている。小正月頃、子どもたちが田の畔を壊すモグラを追い払い、田植え前には雨乞い踊りで降雨を祈り、晩夏には風鎮祭を開き稲が台風で倒れないように祈願する。収穫後の秋以降、例大祭などで実りに感謝するとともに、舞の奉納などで来季の五穀豊穰を祈願する。

また、この地方に伝わる食事の中には、菊池川が流れこむ有明海で採れた新鮮なこのしろにすし飯を詰めた「このしろの丸ずし」や菊池川で獲れたモクズガニのみそが溶け込んだ「ガネめし」など、地域の食材と混ぜ合わせた米どころならではの料理が残っている。

この地方の伝統的な酒「赤酒」は、保存のために草木を焼いた灰を入れることで酒の色が変化し、その名のごとく赤色をした酒である。甘みが強く、江戸時代は藩の酒として、幕府へ献上していた。地元では祭りや祝い事で飲まれていたが、現在は正月のお屠蘇として欠かせないものとなっている。

古代から脈々と続けられてきた米作りの営みは、江戸時代には「天下第一の米」と呼ばれる肥後米の中心産地として発展していった。将軍の御供米（神仏に捧げるお米）にはこのお米が用いられ、大坂では千両役者や横綱へのお祝い米として「肥後米進上」という立札をつけて贈られるほどだった。菊池川流域は、現代でも全国で最高位の評価を受け続ける、日本有数の米どころである。

このように菊池川流域には、平地には古代の条里、山間には中世以降の井手と棚田、海辺には近世以降の干拓、そして沼地には近代の暗渠排水という、二千年の米づくりを支えた先人の英知と情熱による土地利用の広がりがあり、今もこの大地にその姿を留めている。ここに来ればこうした姿を一堂に、しかもコンパクトに見ることができる。加えて、賑やかな祭りや豊かな食が息づくなど、稲作にかかわる無形の文化も一体的に体感できる。

これはまさに古代から現代までの日本の米作り文化の縮図であり、菊池川流域は日本の米作りの文化的景観とそれによってもたらされた芸能や食文化に出会える稀有な場所なのである。



高瀬船着場：船へ向かって米俵を転がす



豊前街道の町並み



五穀豊穰を祈る松囃子



ガネめし

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	菊池川 <small>きくちがわ</small>	未指定	米作りに必要な肥沃な土と清らかな水をもたらす河川。阿蘇外輪山を源とし、有明海に注ぐ延長 71 km の 1 級河川。江戸時代を中心にこの地域の物流の大動脈であった。	玉名市 山鹿市 菊池市 和水町
②	菊池川流域の弥生時代の 大集落遺跡群	国史跡 ほか	盛んに米作りが行われ、大規模な集落が菊池川流域各地に営まれた。遺跡からは米作りを示す道具、特に鉄器が数多く発掘されている。	玉名市 山鹿市 菊池市 和水町
③	岩原双子塚古墳・ 江田船山古墳 <small>いわばる えたふなやま</small>	国史跡	米作りで得た財力で築造された古墳。岩原(いわばる)双子塚古墳は当流域で最大規模の前方後円墳。江田船山(えたふなやま)古墳は出土品のほとんどが国宝に指定されている。	山鹿市 和水町
④	菊池川流域の装飾古墳群	国史跡 ほか	米作りの富により繁栄した装飾古墳群。チブサン古墳をはじめ流域の装飾古墳は 117 基を数え、国内一の密度を誇る。	玉名市 山鹿市 菊池市 和水町
⑤	菊池溪谷	未指定	菊池川の源流をなす菊池溪谷は、阿蘇の伏流水が多くミネラル分を含み、下流に肥沃な養分をもたらして、米をはじめ様々な農産物に豊かな恵みをもたらしている。	菊池市
⑥	菊池川流域の条里跡、 区画割 <small>じょうりあと くかくわり</small>	未指定	8 世紀ごろに 1 辺約 109 m 四方 1ha (10,000 m ²) に田が区画された。現在もその区画が残り、米作りが続けられている。	玉名市 山鹿市
⑦	鞠智城跡 <small>きくちじょうあと</small>	国史跡	米を備蓄した古代の軍事補給基地。発掘調査により、大量の炭化米、米倉跡が確認されている。また、当地には扇で日没した太陽を呼び戻して田植えを終えさせた「米原(よなばる)長者伝説」が残る。	菊池市 山鹿市
⑧	御宇田井手 <small>みうたいで</small>	未指定	延長 3 年 (925) 伊勢から下向した御宇田氏が引いたとされる用水路と祭り。この用水路で御宇田(みうた)台地の開田が進んだとされる。	山鹿市

⑨	菊池川流域の灌漑施設 <small>かんがい</small>	未指定	新たな水田に水をひくため、用水路やため池を造った。用水路は井手(いで)と呼ばれ、「原井手(はるいで)」など岩盤を長い距離切り貫いたものもある。大規模なため池は、堤防を石積で築いた。	玉名市 山鹿市 菊池市 和水町
⑩	番所地区の棚田 <small>ばんしょ たなだ</small>	未指定	山鹿市北東部の筑肥山地南側に位置する急峻な斜面を切り開いて造られた棚田。秋にはあぜに彼岸花が咲き誇り、美しい景色に彩りを添える。	山鹿市
⑪	旧玉名干拓施設 <small>きゅうたまなかんたくしせつ</small>	国重文 (建造物)	江戸時代初期の熊本藩主、加藤清正によって本格的に始められた以降、連綿と続けられた干拓の遺構が残る。うち明治中期築造の末広開(すえひろびらき)、明丑開(めいちゅうびらき)、明豊開(めいほうびらき)、大豊開(だいほうびらき)の総延長5.2kmにわたる大規模な干拓施設群が、国指定の重要文化財となっている。	玉名市
⑫	富田式暗渠排水技術 <small>とみたしきあんきょはいすい</small>	未指定	明治時代、菊池市出身の富田甚平(とみたじんぺい)が開発した湿田を乾田化する効率的な排水法。現在も塩化ビニル製の水閘(すいこう)となって利用されている。この技術の導入で、全国の耕地面積、面積あたりの収穫量が増大した。	菊池市ほか
⑬	菊之城跡、赤星舟着場 <small>きくのじょうあと あかほしふなつきば</small>	市指定 (史跡) ほか	中世に安定した当地を行い米作りの発展に寄与した菊池氏の初代則隆が、延久2(1070)年に菊池川のほとりに構えた居館跡と船着場跡。	菊池市
⑭	菊池川の中世河口港関連遺跡群 <small>かこうこう</small>	市指定 (史跡) ほか	中世に安定した当地を行い、米作りの発展に寄与した菊池一族は、右岸の高瀬と左岸の伊倉を整備し、海外貿易の拠点とした。伊倉(いくら)には、紀年銘が明らかな中国人墓としては日本最古の「肥後四位官郭公墓(ひごしいかんかくこうぼ)」や、吉利支丹墓碑など国際色豊かな史跡が残る。	玉名市
⑮	菊池の松囃子 <small>まつばやし</small>	国指定 (無形民俗)	中世に安定した当地を行い米作りの発展に寄与した菊池氏が、懐良親王(かねながしんのう)を迎え年頭の祝儀として行ったことを起源とする芸能。中世の松囃子の一形態を伝えるものとして重要であり、能の変遷過程を知る上でも全国的に貴重。	菊池市

⑯	しょうかんじ きくちござん 正観寺・菊池五山	市指定 (史跡)	中世に開発をすすめた菊池氏の文化の繁栄を偲ばせる寺社。正観寺(しょうかんじ)は15代武光の菩提寺である。また菊池五山は、菊池氏が領内の文教を盛んにするため鎌倉に倣い定めたもので、東福寺、西福寺、南福寺、北福寺、大琳寺の五寺からなる。	菊池市
⑰	きくちがわりゆういき ふなつきば 菊池川下流域の船着場 と港町	国指定 (史跡) ほか	江戸時代に米の積み出しで栄えた高瀬や大浜などの港町があり、高瀬、晒(さらし)、千田川原(せんだがわら)などに俵ころがしと呼ばれる石畳の斜路や石段、石垣など船着場の施設が残る。	玉名市
⑱	おくらあと おちややあと 高瀬御蔵跡・御茶屋跡	国指定 (史跡) ほか	熊本藩の御蔵で、ここに菊池川流域の米が集められ大坂堂島へと運ばれた。毎年20万俵以上が搬出された。西南戦争で焼失したが、蔵の礎石などの遺構が残る。また蔵に隣接して御茶屋を設け、ここに藩の重要施設を集中させた。	玉名市
⑲	やまがゆまち ぶぜんかいどう 山鹿湯町 豊前街道沿い の歴史的町並み	未指定	街道と菊池川の船着場が交差した山鹿湯町は、江戸時代以降物流の拠点としても繁栄した。今も土蔵造りの建物が並び、往時の繁栄を偲ばせる。米を使った菓子屋、酒造会社、麴屋(こうじや)など歴史のある商店が軒を連ねる。	山鹿市
⑳	菊池川流域の酒造り	未指定	菊池川のおいしい米と水を使って、酒造りが行われた。山鹿には1896年創業の「千代の園(ちよのその)」、和水には1902年創業の「花の香(はなのか)」という造り酒屋が残る。	和水町 山鹿市
㉑	やちよざ 八千代座	国重文 (建造物)	明治43年、米問屋などの旦那衆によって建てられた芝居小屋。現在も歌舞伎公演のほか、市民コンサート開催など地域の文化拠点となっている。	山鹿市
㉒	おおはまとしま ねんきさい 大浜外嶋住吉神社年忌祭	市指定 (無形民俗)	10年から20年毎に行われる豊漁・五穀豊穰(ごこくほうじょう)を祈願する祭。仮装して町中総出で米を積んだ荷車を曳く「米引き」という行事や、神輿を舟に乗せて漕ぎだす「御神幸(ごしんこう)」という行事が行われる。	玉名市
㉓	しちろうじんたいさい 七郎神大祭	未指定	通称「七郎(しちろう)さん」と呼ばれ、五穀豊穰と腰より下の病気に霊験あらたかな神として信仰され、県内外から参拝者が訪れる。4月第1日曜日に大祭が催される。	和水町

②④	ひごかぐら 肥後神楽	市指定 (無形民俗) ほか	五穀豊穰(ごこくほうじょう)を祈り舞われる。4つの市町に50の神楽が伝承されており、それぞれに演目や曲のテンポ、足の運びなどが異なるが、大きくは肥後神楽としてまとめられる。	玉名市 山鹿市 菊池市 和水町
②⑤	ながさか 長坂なれなれなすび踊り	市指定 (無形民俗)	五穀豊穰を祈る意を含むという奉納踊り。起源は室町時代とされる。麻の狩衣(かりぎぬ)を着た男たちが大太鼓を中心にして輪になって踊る。	山鹿市
②⑥	ぎょくしょうじ 玉祥寺このみや踊り	市指定 (無形民俗)	五穀豊穰と地域の安全を願う例祭での踊り。御大将2名の前で、化粧をして女装した男性が太鼓をたたきながら踊る。	菊池市
②⑦	あさご 阿佐古かせいどりうち	未指定	五穀豊穰(ごこくほうじょう)などを願った神事。顔を黒塗りした子どもたちが、集落内の各軒を回り、藁(わら)と粟(あわ)で作ったしめなわを配る。	山鹿市
②⑧	ばいりん やぶさめ 梅林天満宮流鏝馬	県指定 (無形民俗)	秋の大祭に神社で五穀豊穰に感謝して奉納される農村に伝わる流鏝馬(やぶさめ)。梅林(ばいりん)天満宮の本殿、拝殿などは登録有形文化財。	玉名市
②⑨	菊池川流域の雨乞い習俗 (踊り、太鼓、仏像洗い)	市指定 (無形民俗) ほか	降雨を願った神事や風習。山鹿市の宗方万行(むなかたまんぎょう)・小坂(おさか)雨乞い踊り・霜野康平寺の仏像洗い、玉名市の大野下(おおのしも)雨乞い奴踊り、和水町の米渡尾(めどお)のひゅうたん回しなど。	玉名市 山鹿市 菊池市 和水町
③⑩	きくち ふうちんさい 菊池の風鎮祭・ つちあみだ うまつく 土阿弥陀・馬作り	未指定	菊池市内に伝わる米作りの農耕儀礼。風よけのため簑(みの)と笠(かさ)を田に飾る風鎮祭(ふうちんさい)、苗の活着のため土で仏像を固める土阿弥陀(つちあみだ)、農耕馬の健康祈願のための馬作り(うまつくり)。	菊池市
③⑪	このしろの丸ずし	未指定	菊池川の河口で取れるこのしろ(ニシンの一種で海水魚)を1尾まるまる使った寿司。正月や祝いの席などによく食べられる。	玉名市 山鹿市
③⑫	ガネめし	未指定	秋から冬に食べられる郷土料理。ガネ(川ガニ)の炊き込みご飯。	和水町 山鹿市
③⑬	あかさけ 赤酒	未指定	江戸時代、熊本藩の「お国酒」として作られ、幕府にも献上された酒。保存するため草木灰を入れることで赤く色づく。現在は当地域の正月のお屠蘇(とそ)に欠かせない特別なお酒。	山鹿市

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

① ^{きくちがわ} 菊池川



④ ^{きくちがわ} 菊池川流域の装飾古墳群



(写真はチブサン古墳)

② 菊池川流域の弥生時代の大集落遺跡群



(出土品は方保田東原遺跡から
日本で唯一の石包丁形鉄器)

⑤ 菊池溪谷



③ ^{いわぼる} 岩原双子塚古墳・^{えたふなやま} 江田船山古墳



(岩原双子塚古墳)



(出土品は江田船山古墳から：東京国立博物館蔵)

⑥ 菊池川流域の^{じょうりあと} 条里跡、^{くかくわり} 区画割



⑦ きくちじょうあと
鞠智城跡



⑩ ばんしよ たなだ
番所地区の棚田



⑧ みうたいで
御宇田井手



⑪ きゅうたまなかんとくしせつ
旧玉名干拓施設



めいちゆうびらきしおけいぼう
(写真は明丑開潮受堤防)

⑨ かんがい
菊池川流域の灌漑施設



(写真は湯の口溜池)

⑫ とみたしきあんきよはいすい
富田式暗渠排水技術



とみたじんべいけんしやうひ すいこうどかん
(写真は富田甚平顕彰碑と水閘土管)

⑬ ^{きくのじょうあと} 菊之城跡、^{あかほしふなつきば} 赤星舟着場



⑭ ^{しょうかんじ} 正観寺・^{きくちござん} 菊池五山



⑮ ^{かこうこう} 菊池川の中世河口港関連遺跡群



(写真は^{ひごしいかんかくこうぼ}肥後四位官郭公墓)

⑯-1 ^{ふなつきば} 菊池川下流域の船着場



(写真は^{さらし}晒船着場)

⑯ ^{まつばやし} 菊池の松囃子



⑯-2 菊池川下流域の船着場



(写真は^{たかせ}高瀬船着場)

⑱ たかすねくらあと おちのやあと
高瀬御蔵跡・御茶屋跡



(左：御蔵碑文 右：御蔵礎石)

㉑ やちよぎ
八千代座



⑲ やまがゆまち ぶせんかいどうぞ
山鹿湯町 豊前街道沿いの歴史的町並み



㉒ おおはまとしすすみよしじんどやねんきさい
大浜外嶋住吉神社年紀祭



⑳ 菊池川流域の酒造り



㉓ しちろうじんたいさい
七郎神大祭



②4 ひごかくら
肥後神楽



②7 あきご
阿佐古かせいどりうち



②5 ながさか
長坂なれなれなすび踊り



②8 ぼいりん やぶさめ
梅林天満宮流鏝馬



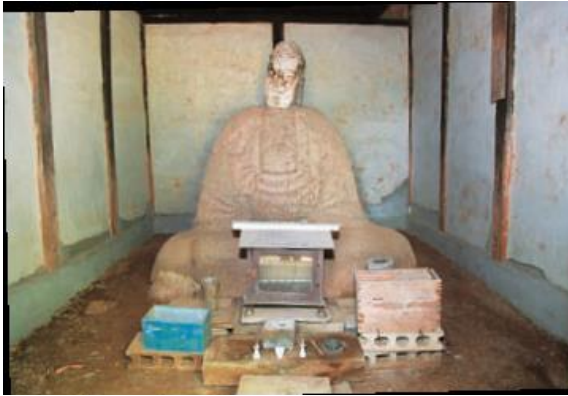
②6 きょくしょうじ
玉祥寺このみや踊り



②9 菊池川流域の雨乞い習俗



③⑩ きくち ふうちんさい つちあみだ うまつく
菊池の風鎮祭・土阿弥陀・馬作り



③③ あかざけ
赤酒



③① このしろの丸ずし



③② ガネめし



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
053	米作り、二千年にわたる大地の記憶～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～

(1) 将来像 (ビジョン)

菊池川流域は、阿蘇から有明海に注ぐ菊池川の恵みによって生まれる水と自然、時間の悠久の流れの中で、人々が二千年にわたって米作りを営んできた地域である。

ここには、人々が繰り返し営んできた米作りから育まれた豊かな食や祭り、町並みなど、古代から現在に至るまでの日本の米作りの縮図が残されている。

これは現代においても色褪せることのない文化であり、持続可能性が重視される現代においてこそ守り、伝え、活かしていきたい日本の文化である。

そこで、菊池川流域の日本遺産を保存・継承することで、地域住民の地域や文化への誇りを醸成し、菊池川流域日本遺産のストーリーや構成文化財を活用した文化観光の振興を行うことで、地域への関係人口・交流人口の増加を図っていく。さらには民間団体・事業所をこれまで以上に巻き込み、地域への経済波及効果を得て、地域活性化を図り、菊池川流域日本遺産の保存・継承へ繋げる好循環を目指していく。

認定地域（玉名市、山鹿市、菊池市、和水町）の行政計画には、総合計画のほか、教育振興基本計画、観光振興ビジョンなどに、普及啓発や観光コンテンツとして日本遺産の活用を提示している。

【上位計画への位置づけ】

▼玉名市：「玉名市教育振興基本計画」では、市内の複数の文化財もその構成要素となっている「菊池川流域の米文化」が日本遺産に認定されたことをうけ、SNS等による情報発信やガイド育成、多言語パンフレットの作成といった観光面での活用のほか、（文化財の）さらなる調査・研究を進め、必要に応じて新規の指定等を行い、その保存・活用を図るとしている。

▼山鹿市：「山鹿市教育振興計画」では、菊池川流域の3市1町で取り組んでいる菊池川流域日本遺産協議会による推進活動など「活用」のための事業、八千代座第2次整備事業や方保田東原遺跡保存整備事業、文化財管理事業など文化財を取り巻く環境を良好に保つため、施設の維持・管理などを主に行う「保存」のための事業をバランスよく行い、文化財による観光振興や産業振興などに寄与するとしている。

▼菊池市：「菊池市総合計画」では、菊池川流域日本遺産の史跡、文化財等の歴史文化資源を生かしたツアー造成に向けたコンテンツを磨き上げるとしているほか、「総合計画」を受けた「菊池市観光振興ビジョン」では、菊池川流域日本遺産の史跡や文化財等のコンテンツについても、関係自治体・関係団体等とも連携しながら磨き上げを行い、観光コンテンツとしての魅力向上を図っていくとし、「菊池市教育振興基本計画」では、菊池川流域日本遺産などを中心にした出前講座の実施等により、児童生徒への周知啓発を図っていくとしている。

▼和水町：「和水町まちづくり総合計画」では、日本遺産である菊池川流域の二千年にわたる米づくりをテーマにしたストーリーを活かし、菊池川流域の4市町や民間等と連携しながら、県北地域ならではの魅力を国内外に広く発信し、地域活性化に繋げるとしている。

これらの計画における位置づけを踏まえて、中長期的（20年～30年）な見地に立った菊池川流域のあるべき姿として、次のような地域の実現を目指していく。

○来訪者

「二千年にわたる米作りの地」として「現代でも全国有数の米どころとして、おいしいお米が採れ、ここに来ればここにしかない（エリアブランド化した）美味しいお米を使った食事が堪能できる」ということが地域内外に認知されている状態

○地域住民

菊池川流域「二千年にわたる米作りの地」としての日本遺産のストーリーを、地域住民誰もが理解し誇りに思っている状態

○民間事業者等

「菊池川流域日本遺産協議会」を中心に、行政だけでなく、民間事業者等も主体的にかかわり、米作りの歴史や文化がもたらした有形・無形の多くの文化財を面をつなぎ、食も絡めて、外国人にも魅力的な観光コンテンツとして磨き上げることで、国内外からの交流人口・関係人口が増加している状態

○文化資源の保存・継承と活用の好循環

日本遺産のストーリーや構成文化財の活用を通して観光産業が回っており、その利益の一部が文化資源の保存と継承に生かされるなど、好循環を生み出している状態

（2）地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①：日本遺産のストーリーを体験した来訪者の数

年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	945 人	1,459 人	3,312 人	3,709 人	4,154 人	4,652 人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	目標値設定の考え方：2022 年度を基準とし、前年度比約 12%増					

	把握方法：田植え、稲刈り、スタンプラリーやサイクルイベント等の日本遺産体験コンテンツ(詳細は事業番号5-Aに記載)を体験した人数
--	--

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②：地域住民が日本遺産を誇りに思う割合						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	—	—	—	50%	55%	61%
目標値の設定の考え方 及び把握方法	目標値設定の考え方：2023年度目標を50%とし、前年度比10%ずつ増加 把握方法：行事・祭事での市民への日本遺産に係るアンケート調査あるいは出前講座における日本遺産検定結果					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③：3年後に、日本遺産体験コンテンツの年間売上233万円以上						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	72万円	119万円	166万円	186万円	208万円	233万円
目標値の設定の考え方 及び把握方法	目標値設定の考え方：2022年度実績を基準とし、前年度比約12%ずつ増加 把握方法：日本遺産に係る体験コンテンツ売上金額					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④：公開活用ができている構成文化財の割合						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	57%	57%	59%	67%	69%	70%
目標値の設定の考え方 及び把握方法	目標値設定の考え方：2022年度を基準とし、3年後11%増加 把握方法：全構成文化財の状況					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤：地域の観光入込客数						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025

数値	7,227,610 人	7,099,845 人	8,216,901 人	9,203,000 人	10,307,000 人	11,544,000 人
目標値の設定の考え方 及び把握方法	<p>目標値設定の考え方：2025年度にコロナ禍前(2019年度)の入込客数を超える11,544,000人を目指し、2022年度(見込)数を基準とし、前年度比約12%増とする。</p> <p>把握方法：観光関連統計</p>					

(3) 地域活性化のための取組の概要

ア これまでの取組み

米作り、二千年にわたる大地の記憶～菊池川流域「今昔『水稻』物語」～は、平成29年度に日本遺産に認定されて以降、菊池川流域4市町や熊本県のほか民間団体等で構成する菊池川流域日本遺産協議会を中心に、

- ①構成文化財説明板の設置、流域物産館への日本遺産コーナーの設置・イメージ動画放映などの来訪者が周遊しやすい環境整備
 - ②保存や活用のための未指定文化財に関する調査研究
 - ③ホームページ開設・多言語化、リーフレット・多言語パンフ作成などの国内外に向けた情報発信
 - ④ガイド養成・フォローアップ研修の実施、ガイドマニュアル・教則本・副読本の作成、SNSを活用した魅力発信研修などの人材育成
 - ⑤出前講座、食育事業としての稲刈り体験、事前学習会の実施による児童生徒や地域住民への普及啓発
 - ⑥周遊ルート造成、モニターツアーの実施、グルメ冊子の作成、米を活かした新メニュー開発、お買い物キャンペーン、ホームページを利用したガイド受付・コーディネート機能の実装などの文化財を体感・体験できる観光事業化
- などに取り組み、一定の成果をあげてきた。

イ 課題

しかしながら、依然として次の課題が存在する。

課題1 古代には装飾古墳がいくつも築かれ富の集中が見られるほど豊かな地域であり、江戸時代は菊池米が全国のコメの価格を左右するほどであったという菊池川流域が、「二千年にわたり連綿として受け継がれてきた米作りの地」であり、「現代でも全国有数の米どころとして、おいしいお米が採れる」地域である。このため、これまで、ガイドの育成やHP・SNSを活用した情報発信などにより、菊池川流域「二千年にわたる米作りの地」のストーリーを対外的に発信してきたが、日本全国に普遍的に存在する稲作の歴史や、全国的に「米どころ」として認知されている新潟や東北地方などと比較して、菊池川流域「二千年にわたる米作りの地」の認知度はそれほど高くない。

課題2 これまで、出前講座やパネル展、古代の赤米づくり、スタンプラリー、構成文化

財の調査・研究など、文化財を主たるテーマにした活動を行ってきた。しかし、菊池川流域が米作りとこれらを支えたインフラを軸とした、二千年の時を超えた「ものづくり」の地として、米作りが凝縮された地域であるとの特筆すべき日本遺産のストーリーが、地域の児童生徒・住民、特に文化財に興味・関心を持たない一般の方へ十分浸透しておらず、その結果として、日本遺産に誇りと愛着を持てるような意識の醸成を進める有効な手立てが打てていない。

課題3 日本遺産のストーリーや構成文化財の活用については、構成文化財である装飾古墳の一般公開や装飾古墳であるチブサン古墳を廻るナイトツアーなど、構成自治体や県などの博物館や教育委員会、観光協会などによる取組みは進んでいるが、構成文化財を活用した体験型メニューの開発や旅行企画など、民間事業者による活用はまだ開拓の余地があるほか、民間団体などの地域プレーヤーの掘り起こし・育成など、観光業における民間活力を十分に生かし切れていない。

ウ 今後の取組み

イの課題を解決し、(1)の将来像の実現に向けて、今後3年間においても、これまでの取組みを改善・発展させながら、地域全体で次のような日本遺産の活用に向けた取組みを行う。

取組1 日本遺産を知ってもらうための取組み

日本遺産を広く認知してもらうとともに、興味を持ってもらい、訪問の動機づけを与えられるような取組みを行う。

具体的には、日本遺産のストーリーに関する情報を地域内外の人が興味をもち、分かりやすく理解できるような構成文化財の解説内容の拡充や多言語化、展示コーナーの設置、サブストーリーの抽出、構成文化財の位置情報や内容をオンラインマップへ積極的に掲載するなど地域内外の人々が来訪する際に必要となる基本的な情報をホームページだけでなく複数ルートから取得できるよう整備、フォトコンテストの継続的な開催や時宜を得たSNSを駆使した情報発信、視聴者が入り込みやすいように旅番組風に仕立てた日本遺産構成文化財の紹介動画の作成などを行う。

取組2 日本遺産を誇りに思える取組み

地域の子どもたちや住民に対して、田植えや稲刈りの体験や出前講座等を通じて米作りに対する先人の熱意と努力の歴史を伝えることで、地域への愛着と誇りの気持ちを醸成し、米作りや菊池川流域日本遺産ストーリーの継承・担い手の育成につながるような取組みを行う。

具体的には、江戸時代に菊池川流域一帯で栽培され、大坂の米相場で高い評価を得ていた肥後のブランド米を活用した地元高校生による田植えや栽培、他者に説明することで自らの理解を深め、自分が住まう地域への誇りと愛着を持てるよう、地域の子どもが自らガイドとなり活動する「子どもガイド」の育成、市町の枠を超え、各広報誌への地域を横断する連載形式で構成文化財やストーリーに関する情報掲載や、米やがね(蟹)な

ど流域の食材を生かした日本遺産料理コンテスト・料理教室の開催、地域住民等のボランティアによる除草や清掃活動等の構成文化財の保存活動などを行う。

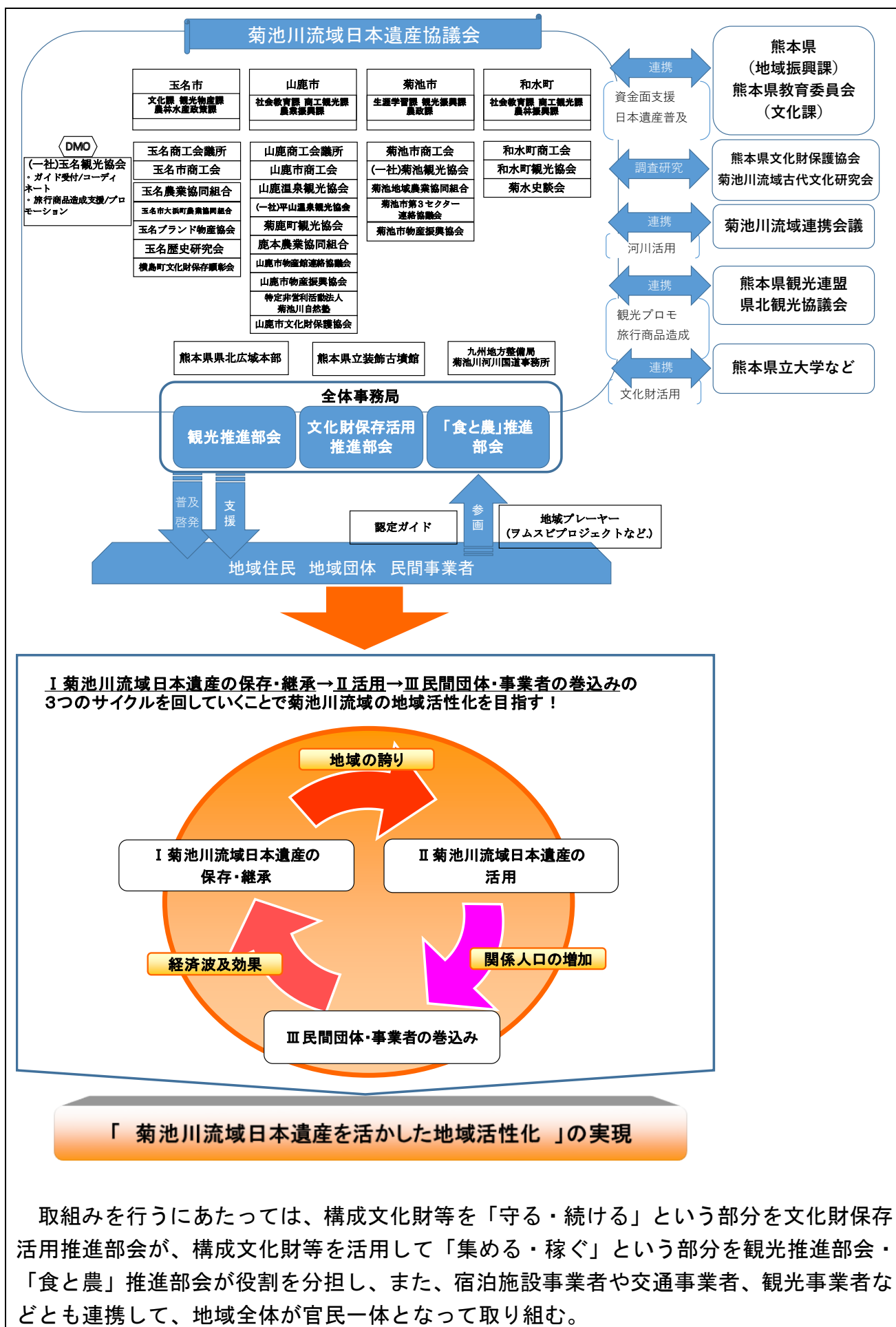
取組3 日本遺産を活用した取組み

来訪者に日本遺産ストーリーを体験し、その価値を実感してもらえるよう、日本遺産の構成文化財等を活かした観光商品・コンテンツ等の開発を行い、来訪者の周遊と滞在を促す取組みを行う。また、米やその加工品については、その味を楽しむという体験と同時に、歴史やストーリーを紹介することによる更なるブランド力の深化・向上を図り、多くの事業者の様々なメニュー・商品開発、販売につながるような取組みを行う。さらに、これらの取組みを担う地域プレーヤーの掘り起こし・育成を行う。

具体的には、来訪者にロードバイクなどのスポーツタイプの自転車を使い、構成文化財を周遊してもらう中距離のサイクルイベントの企画、モデルコースの設定、構成文化財である江田船山古墳から出土した国宝「銀象嵌銘大刀」に使われている象嵌打ち体験や勾玉づくり体験、甲冑着付け体験、豊前街道沿いのお店やお寺などを『お米』というテーマで案内する街歩きの型の散策ツアー、菊池川流域の遺跡・古墳の魅力を体験してもらうため、現地に出向いて直に遺跡を見た方限定のオリジナル「古代の森カード」の作成・配布、民間団体と連携し、菊池川下流に所在する船着場跡を活かし、菊池川中流から収穫した米俵を和船に載せて運び米の集積地である国史跡に指定された「熊本藩高瀬米蔵跡」に卸すイベントの検討・企画、江戸時代に菊池川流域一帯で栽培されていた肥後のブランド米を使い、地元の飲食グループや飲食店・旅館等と連携して、食メニュー開発を行う。また、洋菓子店・パン屋・ラーメン店で米粉を使った加工品の開発に取り組む。

(4) 実施体制

協議会のもとに3つの専門部会（観光推進部会、「食と農」推進部会、文化財保存活用推進部会）を置き、民間事業者や民間団体とも連携を図り、地域プレーヤーも育成しながら、米作り、二千年にわたる大地の記憶を通じた地域活性化の取組みを継続していく。



[人材育成・確保の方針]

今後育成していく地域プレーヤーの中から、地域を牽引していく力のある人材を確保していく。その人材をフックとし、他のプレーヤーや地域を巻き込みながら、日本遺産事業に携わる人材の育成・確保を進めていく。

学校教育においては、出前講座や構成文化財の現地案内、子どもガイドの養成を積極的に行うことを通じて、地域の様子や歴史について学ばせ、ふるさとへの愛着を醸成することで将来の担い手確保に繋げていく。

一方で、外部の専門家や地元の大学との連携により、地域課題解決の知見・ノウハウの蓄積・共有を行っていく。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

日本遺産の取組みを行う協議会等の組織の継続的な活動のため財源等を確保する仕組みを構築することは重要であるが、観光協会・物産館・民間事業者など、地域の観光・物産を牽引する民間団体が、日本遺産を活用する組織を自ら立ち上げ、日本遺産のストーリーを活用した取組みを行い自立・自走できる状況には至っていない。そのため、ストーリーや構成文化財を活かした民間事業者の商品造成による観光消費額の増加を目指しつつ、引き続き、自治体からの負担金を得て、協議会で人材育成、整備、観光事業化、普及啓発、情報発信の取組みを継続していく。

今後、民間事業者の主体的な取組みが活発となるよう推進し、民間事業者が運営の中心的役割を果たせるよう財源・事務の移行を行うことを念頭に事業を進めていく。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財の継承のため、日本遺産を活用した次のような取組みを行い、構成文化財の保存と活用につなげていく。

- ① 日本遺産関連事業の収益の一部を構成文化財に還元する試みとして、ツアー客など構成文化財見学者に認定ガイドをコーディネートする際、ガイド料と合わせて構成文化財を維持管理する費用の一部を負担してもらう仕組みの導入を検討する。
- ② 日本遺産関連事業の実施による誇りの醸成を住民による構成文化財の保存活動につなげる取組みとして、地元中学生が事前に構成文化財について出前講座により学習したうえで誇りを醸成し、除草や清掃活動など構成文化財の保存活動につなげる取組みを行う。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	構成団体連絡会議の定例化と組織内研修		
概要	計画の円滑な実施のため、関係者間の情報の集約・共有を行う連絡会議を定例化し、定期的に組織内研修を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	構成団体連絡会議の定例化	日本遺産関係の行事・事業を中心とした情報の集約・共有及び発信に対する連携意識の醸成を図るため、協議会を構成する団体毎の連絡会議を定例化する。	各構成団体
②	構成団体組織内研修	構成団体等の目的意識の維持及び向上を図るため、主に認定ガイドを講師として、日本遺産のストーリーや構成文化財に関し、定期的に組織内研修を行う。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	連絡会議の開催数		2回
2021			1回
2022			1回
2023	連絡会議の開催数 組織内研修の開催数		4回
2024	同上		8回
2025	同上		12回
事業費	2023年度：10千円 2024年度：10千円 2025年度：10千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産関係の情報共有であり、それぞれの構成団体が主体性をもって取組みを継続していく。		

(事業番号 1 - B)

事業名	個人サポーターの組織化		
概要	構成文化財に関係する各地域のガイド等が互いに連携できるよう、日本遺産の取組みに協力している個人サポーターの組織化を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産関係ガイド等個人サポーターの組織化	日本遺産のストーリーや構成文化財について域外への浸透を図るため、構成文化財に関係する各地域のガイド等が互いに連携できるよう、日本遺産の取組みに協力している個人サポーター	協議会

		の組織化を行う。	
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020			—
2021			—
2022			—
2023	個人サポーター数		10人
2024	同上		20人
2025	同上		30人
事業費	2023年度：0千円	2024年度：0千円	2025年度：0千円
継続に向けた 事業設計	地域のガイド等が互いに連携できるよう組織化するものであり、協議会が主体となって取組みを継続していく。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号2-A)

事業名	他の行政計画への位置付け		
概要	将来像の実現に向けた短期的・中長期的な戦略の立案を行うため、他の行政計画への位置づけを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	構成市町総合計画等への記載	日本遺産の趣旨を踏まえ、構成市町の各種の行政計画と日本遺産の関係性を整理し、構成市町の長期的構想への組み込みを行う。	構成市町
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	日本遺産との関係性を明確化した構成市町の行政計画数		7件
2021			7件
2022			7件
2023	同上		8件
2024	同上		8件
2025	同上		8件
事業費	2023年度：0千円	2024年度：0千円	2025年度：0千円
継続に向けた事業設計	各種の行政計画に日本遺産を位置づける取り組みであり、構成市町が主体となって、行政計画担当部署への働きかけを継続していく。		

(事業番号2-B)

事業名	PDCAサイクルをまわす仕組みの整備		
概要	計画の実施状況を把握し改善するため、達成状況調査やデータ分析、協議会における情報共有や協議を定期的に行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	部会別ワーキンググループによる協議・情報共有	日本遺産の取組に関するPDCAについて、観光推進部会・「食と農」推進部会・文化財保存活用部会の下にそれぞれ置かれたワーキンググループにおいて、定期的に協議・情報共有を行う。	協議会
②	目標値の達成状況把握のための調査	地域活性化計画において設定した5つの目標や取組毎に設定した目標の達成状況を把握するため、各構成団体等が把握している観光客入込み数や施設の入場者数、ホームページのアクセス件数等により状況把握を行う。	協議会 各構成団体等
③	日本遺産検定	日本遺産ストーリーや構成文化財の価値が地元どこまで浸透・理解されているかを把握する	協議会

		ため、主に域内児童生徒や住民を対象とした効果測定として検定を行う。	
④	データ分析	目標値達成状況把握のための調査の報告データに基づきデータ分析を行う。	協議会
⑤	戦略策定	目標値達成状況把握のための調査報告データをデータ分析し、その結果を基に、今後の戦略を策定する。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	地域住民の日本遺産認知度 (ブランド認知度)		—
2021			—
2022			—
2023	同上		30%
2024	同上		50%
2025	同上		60%
事業費	2023年度：130千円 2024年度：130千円 2025年度：130千円		
継続に向けた事業設計	協議会において策定した地域活性化計画に基づいて計画的、組織的な事業運営を進めていくことから、構成市町及び熊本県の負担金をもとに取組みを継続していく。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	日本遺産を活用する人材の育成・支援		
概要	日本遺産を活用する人材の育成・確保のため、事業実施を担う「地域プレイヤー」の掘り起こし・育成を行うとともに、新規事業や起業を行う者の支援を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	地域プレイヤーの掘り起こし・育成	日本遺産の構成文化財やストーリーを活用して「人を集める」「稼ぐ」取組みを行う新たな地域プレイヤーの掘り起こしを行うとともに、認定ガイドやラムスビプロジェクト*参加事業者をはじめとした地域プレイヤーの育成を行う。 *菊池川流域をむすぶ「ラムスビ」をテーマに、菊池川流域で育まれた「おいしい」お米や食材を使った新メニュー開発やPRを支援し、菊池川流域の「食」のブランディングを進めていく取組み	構成市町協議会
②	日本遺産を活用した新規事業・起業への支援	民間が行う日本遺産を活用したイベントや体験型コンテンツ造成の取組みを後押しするため、日本遺産を活用した新規事業や起業を行う者に対して、補助や融資等により支援を行い、補助後の自走化を促す。	構成市町 熊本県 商工会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	日本遺産を活用する人材・事業者の数 (地域プレイヤー数)		43件
2021			42件
2022			44件
2023	同上		46件
2024	同上		48件
2025	同上		50件
事業費	2023年度:0千円	2024年度:0千円	2025年度:0千円
継続に向けた事業設計	地域における日本遺産の活用の担い手の育成にかかわる事業であることから、基本的には構成団体の自主財源を活用することを基本として取組みを継続していく。		

(事業番号3-B)

事業名	日本遺産活用の民間事業者向けワークショップ		
概要	日本遺産のストーリーや構成文化財を民間で積極的に活用してもらうため、民間事業者向けにワークショップを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体

①	日本遺産活用の民間事業者向けワークショップ	日本遺産のストーリーや構成文化財を民間で積極的に活用してもらうため、「ラムスビ」プロジェクト参加事業者等民間事業者向けにワークショップを行う。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	ワークショップの実施回数		0回
2021			2回
2022			3回
2023	同上		2回
2024	同上		2回
2025	同上		2回
事業費	2023年度：250千円 2024年度：250千円 2025年度：250千円		
継続に向けた事業設計	民間事業者による日本遺産ストーリーの活用を促進する部分となることから、構成市町及び熊本県の負担金をもとに取組みを継続していく。		

(事業番号3-C)

事業名	観光環境の充実		
概要	域外の人々に日本遺産のストーリーに触れてもらえる機会を創出するため、来訪者と接触する認定ガイド及び施設・タクシー・ホテル等の従業員に対して、日本遺産に関する研修を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	認定ガイドのスキルアップ研修	認定ガイドの更なるレベルアップを図るため、ストーリーや構成文化財に関する知識の更新研修、ガイドとしてのおもてなしテクニック研修を行う。併せて、認定ガイドの更新制について検討する。	協議会 玉名観光協会
②	施設・タクシー・ホテル等職員研修	来訪者の満足度向上、地域内の観光関係事業者に対する日本遺産ストーリーの理解度向上を図るため、ファーストコンタクトとなる施設・タクシー・ホテル等の従業員等を対象として、日本遺産ストーリー・構成文化財に関する研修を行う。	協議会 玉名観光協会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	研修の実施回数		2回
2021			1回
2022			3回
2023	同上		5回

2024	同上	7回
2025	同上	10回
事業費	2023年度：220千円 2024年度：220千円 2025年度：220千円	
継続に向けた 事業設計	日本遺産ストーリーや構成市町の魅力を発信するという協議会としての事業であることから、構成市町及び熊本県の負担金をもとに取組みを継続していく。施設・タクシー・ホテル等従業員研修については、先方の理解を得ながら、各団体の会議等の時間を使うなど、新たな負担とならないよう配慮する。	

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	ストーリーに関する施設設備の整備		
概要	地域内外の人々に日本遺産のストーリーを体験してもらう事業を行うために必要となる基盤を整備するため、構成文化財の解説内容の拡充や多言語化、展示コーナーの設置、サブストーリーの抽出などを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	道路観光標識等の整備	来訪者の利便性向上のため、国道にある構成文化財に関する道路観光標識に日本遺産ロゴマーク表示を追加するとともに、自転車利用者が周遊する際の利便性向上のため、矢羽根等自転車通行帯の表示・整備を行う。	熊本県
②	ストーリーの全体像を伝える日本遺産コーナーの設置・リニューアル	来訪者に日本遺産のストーリーを紹介し、興味を持ってもらうため、流域内の物産施設や協力店舗等に、日本遺産のストーリーを紹介・旬な情報を提供する日本遺産コーナーの設置（既設置店舗についてはリニューアル）を行う。	協議会
③	構成文化財等における解説内容の拡充	既存看板に解説がないまたは既存解説の内容が簡素な構成文化財について、詳しい内容の解説を作成しホームページに掲載するとともに、現地看板に詳しい解説を付す代替として、詳しい内容の解説を掲載したホームページに誘導するための耐候性のQRコードシールを作成し、構成文化財の既存看板に貼付する。	協議会
④	ネイティブ監修による構成文化財解説内容の多言語化	インバウンド観光の本格回復に備え、構成文化財の解説内容拡充に対応し、地域在住のALT等ネイティブ監修による構成文化財解説内容の多言語化を行う。	協議会
⑤	パンフレットのリニューアル・電子化	日本遺産のストーリーや構成文化財、観光情報を来訪者に紹介するために作成した現行の紙パンフレットは作成してから時間が経っているため、内容を更新のうえ電子化する。	協議会
⑥	サブストーリーの抽出及びまとめ	体験の需要や方法を想定しつつ、サブストーリーとする対象を抽出したうえ、地域内外の人の興味を惹き、魅力が伝わるようなサブストーリーを作成し、日本遺産ホームページでの紹介や製本化等を行う。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	施設設備の整備数		53件

2021	紹介したサブストーリーの数	42件
2022		55件
2023	同上	65件
2024	同上	75件
2025	同上	75件
事業費	2023年度：45千円 2024年度：545千円 2025年度：545千円	
継続に向けた事業設計	日本遺産のストーリーを広く伝えるための基盤を整備する事業であることから、構成市町及び熊本県の負担金をもとに取組みを継続していく。事業費がかかる新たな看板設置をQRコードシール作成・既存看板貼付に代えることで、より多くの構成文化財に対応できるよう工夫する。	

(事業番号4-B)

事業名	構成文化財等維持管理支援		
概要	構成文化財を継続的に維持管理していくため、日本遺産構成文化財を維持管理する団体等を支援する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	構成文化財等維持管理支援	構成文化財を適切に管理するため、各市町において、日本遺産を構成する文化財に対して除草や清掃活動等を行い維持管理する団体等を費用面から支援する。	構成市町
②	構成文化財保全活動支援金の創設検討	構成文化財の保存と活用の好循環の創出という観点から、ツアー客など構成文化財見学者が構成文化財を維持管理する団体等の活動を費用面から支援する「保全活動支援金」の仕組み創設を検討する。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	公開活用ができていない構成文化財の割合		57%
2021			57%
2022			59%
2023	同上		67%
2024	同上		69%
2025	同上		70%
事業費	2023年度：0千円 2024年度：0千円 2025年度：0千円		
継続に向けた事業設計	構成文化財については、構成市町が地元団体に管理委託するなどして維持管理しているが、構成文化財の保存と活用の好循環の創出という観点から、来訪者からの支援金によって保全活動の取組みを継続する仕組みを検討する。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	日本遺産ストーリー体験コンテンツ企画・実施		
概要	地域内外の人々に日本遺産のストーリーを体験してもらうことにより経済効果を生み出すため、認定ガイド派遣、体験コンテンツ・ストーリー関連商品の販売等を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	認定ガイド受付・コーディネートと認定ガイドの活用強化	来訪者に日本遺産ストーリーを体験し、その価値を実感してもらえるよう、これまで養成してきた認定ガイドの派遣受付・派遣コーディネートを行う。また、旅行ツアー等に留まっている日本遺産認定ガイドの活用機会を増やすため、各種研修会や出前講座など、認定ガイドの活用機会を広げる取り組みを行う。	協議会 玉名観光協会
②	日本遺産デジタルスタンプラリーの企画	来訪者に日本遺産ストーリーを体験し、その価値を実感してもらえるよう、構成文化財や装飾古墳を自転車や歩きにより回るサイクルラリーやウォークラリーを企画・実施する。	協議会
③	日本遺産構成文化財を巡るサイクリイベントの企画・自走化	流域長 71km、流域面積 996 km ² の菊池川流域 4 市町に点在する菊池川流域日本遺産の構成文化財・日本遺産ストーリーの特性を理解し・関心を深め体験してもらい、滞在時間を延ばす方策として、来訪者にロードバイクなどのスポーツタイプの自転車を使い、構成文化財を周遊してもらう中長距離のサイクリイベントを民間団体とともに企画し、参加料をもとにした自走化を目指す。	協議会 ランドヌール 熊本
④	オーナー制度等による田植え・稲刈り等の観光事業化	来訪者に日本遺産ストーリーを体験し、その価値を実感してもらえるよう、田のオーナー制度等により、田植え稲刈り等を体験し、その収穫米を食べる、加工品にする等まで含めて観光事業化する。	民間事業者
⑤	菊池川年貢米集積・保管再現イベントの検討・企画	来訪者に日本遺産ストーリーを体験し、その価値を実感してもらえるよう、菊池川下流に所在する船着場跡を活かし、菊池川中流から収穫した米俵を和船に載せて運び、米の集積地であり、国史跡に指定された「熊本藩高瀬米蔵跡」に卸すイベントの検討・企画を行う。	民間団体

⑥	装飾古墳一般公開	来訪者に対し日本遺産ストーリーを直に体験し、貴重な文化遺産としての価値を実感させるために、通常は公開していない古墳内部の見学などの特別公開として菊池川流域の装飾古墳を専門職員や日本遺産ガイドの解説を聞きながら無料で見学できる機会を設ける。	装飾古墳館 構成市町 肥後古代の森協議会 菊池川流域古代文化研究会
⑦	菊池渓谷ライトアップの企画・実施	来訪者に日本遺産ストーリーを体験し、その価値を実感してもらえるよう、ストーリーの軸となる菊池川の源である菊池渓谷をライトアップすることで、夜間の魅力向上を図り、名水百選にも選ばれた菊池水源の水で沸かしたコーヒーを有料提供するなど、新たなナイトツアーの造成や閑散期の誘客につなげる。	菊池渓谷を美しくする保護管理協議会
⑧	日本遺産ストーリー・構成文化財を核としたイベントの実施	来訪者に日本遺産ストーリーを体験し、その価値を実感してもらえるよう、構成市町において日本遺産のストーリーや構成文化財を核とした大俵まつり(玉名市)、八千代座物語(山鹿市)、菊池秋まつり(菊池市)、古墳祭、山太郎祭(和水町)を開催する。	各市町実行委員会
⑨	歴史や構成文化財に関連する体験の実施	来訪者に日本遺産ストーリーを体験し、その価値を実感してもらえるよう、構成文化財である江田船山古墳から出土した「銀象嵌銘大刀」に使われている象嵌打ち体験や勾玉づくり体験、甲冑着付け体験、豊前街道沿いのお店やお寺などを『お米』というテーマで案内する街歩きの型の散策ツアー、菊池川流域の遺跡・古墳の魅力を体験してもらうため、現地に出向いて直に遺跡を見た方限定のオリジナル「古代の森カード」の作成・配布など、構成文化財の歴史体験コンテンツを実施する。	構成市町 装飾古墳館 鞠智城・温故創生館 肥後古代の森協議会 観光協会 民間事業者
⑩	川・水などの自然に関連する体験の実施	来訪者に日本遺産ストーリーを体験し、その価値を実感してもらえるよう、構成文化財の一つとなっている菊池川における SUP(サップ) & カヌー・カヤックなど川を活用した体験や、紙漉きなど水を使用した体験コンテンツを実施する。	構成市町 菊池川おおかわの会 民間事業者
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020			945 人
2021			1,459 人
2022			3,312 人

2023	日本遺産コンテンツを体験した人数	3,709人
2024	同上	4,154人
2025年	同上	4,652人
事業費	2023年度：630千円 2024年度：630千円 2025年度：630千円	
継続に向けた事業設計	基本的には、構成市町あるいは構成市町と民間事業者との連携による取組となるため、構成市町において必要な財源措置を行いながら、取組みを継続していく。サイクルイベントに関しては、民間団体と連携し、参加者から徴収した参加費で費用を賄う。	

(事業番号5-B)

事業名	モデルルートの構築		
概要	地域内外の人々に日本遺産のストーリーを体験してもらうことにより経済効果を生み出すため、インバウンドや自転車で周遊する方向けにモデルルートを構築する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	アプリ等を活用したインバウンド観光モデルルートの構築	インバウンド観光の本格回復に備え、デジタルスタンプラリー等のアプリの多言語機能を活用して、インバウンド対応の観光モデルルートを構築する。	協議会
②	自転車で周遊してもらうモデルルートの検討	流域長71km、流域面積996km ² の菊池川流域4市町に点在する菊池川流域日本遺産の構成文化財・日本遺産ストーリーの特性を理解し・関心を深め体験してもらい、滞在時間を延ばす方策として、来訪者にロードバイクなどのスポーツタイプの自転車を使い、構成文化財や甘味処、食事処を周遊してもらうおすすめモデルルートを民間団体と連携して検討する。併せて、一定の範囲内(比較的狭いエリア)で周遊するモデルルートも検討する。	協議会 民間団体
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020			—
2021			—
2022			—
2023	モデルルートの設定数(観光客の周遊エリアの拡大)		3件
2024	同上		3件
2025	同上		3件
事業費	2023年度：0千円 2024年度：0千円 2025年度：0千円		

継続に向けた事業設計	日本遺産ストーリーや構成市町の魅力を発信するという協議会としての事業であることから、構成市町及び熊本県の負担金をもとに取組みを継続していく。アプリは、無料で利用できるプラットフォームを使うことで経費を抑える。
------------	--

(事業番号5-C)

事業名	日本遺産ストーリー関連商品の開発・販売		
概要	地域内外の人々に日本遺産のストーリーを体験してもらうことにより経済効果を生み出すため、日本遺産構成文化財やストーリーに関連した商品開発・販売を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ストーリーに関連した食メニュー・加工品の開発	江戸時代に菊池川流域一帯で栽培されていた肥後米を使い、地元の飲食グループや飲食店・旅館等と連携して、食メニュー開発を行う。また、洋菓子店・パン屋・ラーメン店で米粉を使った加工品の開発に取り組む。	民間事業者
②	ストーリーに関連した商品開発	肥後熊本藩により作成された「菊池川全図」や装飾古墳館が作成し無償で提供する「装飾古墳の文様」デザインを利用した手ぬぐいやTシャツなど、日本遺産のストーリーを分かりやすく伝える商品を開発する。	協議会 装飾古墳館 物産館 民間事業者
③	流域内外各種イベントでの関係商品出品・販売	流域内外で開催される様々なイベント、マルシェ等において、開発商品やロゴシール貼付商品、米関連のおすすめ商品など、日本遺産のストーリーや構成文化財に関連する商品を販売する。	民間事業者
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020			2件 49回
2021	食メニュー、加工品・商品の開発数 関係イベントの実施・出品回数		10件 86回
2022			0件 48回
2023	同上		2件 95回
2024	同上		2件 98回
2025	同上		2件 101回
事業費	2023年度：330千円	2024年度：330千円	2025年度：330千円

継続に向けた
事業設計

基本的には、協議会と民間事業者との連携による取組となることから、構成市町及び熊本県の負担金をもとに取組みを継続していく。

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	学校教育との連携		
概要	地域の児童生徒が日本遺産のストーリーを理解し誇りに思えるよう、学校教育と連携し日本遺産に触れる機会を提供する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	出前講座	小中学校・高校等において、日本遺産のストーリーや構成文化財への理解を深め、地元への愛着を育んでもらえるよう、稲作の歴史や米の食育の授業、また田植え稲刈り行事等と連携するなどした出前講座を行う。	構成市町 民間団体
②	子どもガイドの育成・活用	小中学校・高校等において、日本遺産のストーリーや構成文化財への理解を深め、地元への愛着を育んでもらえるよう、域内の小中高校と連携し、子どもガイドの育成と積極的活用を図る。特に高校においては、インバウンド実践を含めた英語でのガイド育成を進めていく。	構成市町 小中高校
③	肥後米の活用	地元への愛着・誇り醸成につなげるため、江戸時代に菊池川流域一帯で栽培されていた肥後米を活用した取組みの一環として、地元高校生と肥後米の田植えや栽培を行う。	民間団体
④	生徒による構成文化財の保存活動	地元中学生が事前に構成文化財の価値を出前講座により学習したうえで、除草や清掃活動など、構成文化財（旧玉名干拓施設）の保存活動を行う。	横島町文化財 保存顕彰会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	出前講座や現地案内に参加した児童生徒の数		536人
2021			547人
2022			793人
2023	学習体験をした生徒の数	800人	
	民間主導のイベントの数	1回	
2024	同上	880人	
		2回	
2025	同上	970人	
		2回	
事業費	2023年度：120千円 2024年度：120千円 2025年度：120千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産ストーリーの普及啓発であることから、取組内容に応じて、構成市町及び熊本県の負担金、又は構成市町の自主財源をベースに取組みを継続していく。		

(事業番号 6-B)

事業名		地域住民への普及啓発	
概要		地域住民が日本遺産のストーリーを理解し誇りに思えるよう、出前講座や施設展示等により継続的な普及啓発を行う。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	出前講座	地域住民に、日本遺産のストーリーや構成文化財への理解を深め、地元への愛着・誇りを醸成するため、各市町において公民館講座や出前講座を行う。	構成市町
②	地域活動における連携啓発講座	地域団体等が実施する民俗芸能や田植え稲刈り、その他日本遺産の構成文化財を含む行事と連携して日本遺産を啓発する。	構成市町
③	図書館、博物館、公民館等でのパネル展示	地域住民に、日本遺産のストーリーや構成文化財への理解を深め、地元への愛着・誇りを醸成するため、図書館、博物館、公民館等の教育施設においてパネル展示を行う。	構成市町 装飾古墳館
④	住民等による構成文化財の保存活動	団体が地域住民・事業者・農漁協などに呼びかけ、ボランティアによる除草や清掃活動など、構成文化財（旧玉名干拓施設、高瀬御茶屋跡、高瀬船着場跡）の保存活動を行う。	横島町文化財保存顕彰会 玉名遺産を活かす会 菊池川おおかわの会
⑤	市町の枠を超えた広報誌への構成文化財情報の掲載	地域住民に、日本遺産のストーリーや構成文化財の理解を深め、地元への愛着・誇りを醸成するため、各広報誌に市町を横断する連載形式で構成文化財やストーリーに関する情報を掲載する。	構成市町
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	出前講座の実施回数		10回
2021			9回
2022			9回
2023	地域住民の日本遺産認知度		30%
2024	同上		50%
2025	同上		60%
事業費	2023年度：60千円 2024年度：60千円 2025年度：60千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産ストーリーの普及啓発であることから、取組内容に応じて、構成市町及び熊本県の負担金、又は構成市町の自主財源をもとに取組みを継続していく。パネル展は、できるだけ公共の施設を利用することで事		

	業費を抑える。
--	---------

(事業番号 6-C)

事業名	日本遺産料理コンテスト、料理学習会		
概要	地域内において日本遺産の認知・関心を高め、誇りに思えるようにするため、流域内の学校や地域住民を対象として、菊池川流域日本遺産関係の食材を使用した創作料理コンテスト・料理学習会を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産料理コンテストの開催	地域住民に、日本遺産のストーリーや構成文化財の理解を深めてもらい、地元への愛着・誇りを醸成するため、日本遺産ストーリーに関連する食材を使用した創作料理コンテストを開催する。	協議会 J A 商工会等
②	料理学習会の実施	地域住民に、日本遺産のストーリーや構成文化財の理解を深めてもらい、地元への愛着・誇りを醸成するため、日本遺産ストーリーに関連する食材を使用したメニューに関する料理学習会を実施する。	協議会 構成市町 J A 等
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	コンテスト、学習会の実施数		2回
2021			0回
2022			1回
2023	同上		3回
2024	同上		5回
2025	同上		7回
事業費	2023年度：500千円 2024年度：500千円 2025年度：500千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産ストーリーの普及啓発であることから、取組内容に応じて、構成市町及び熊本県の負担金、又は構成市町の自主財源をベースに取組みを継続していく。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	ホームページの内容充実・多言語化拡充、オンラインマップ掲載		
概要	日本遺産のストーリーに関する情報とともに、地域内外の人々が来訪する際に必要となる基本的な情報を取得できるように、ホームページ等を整備する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ホームページの内容充実	来訪者の知的好奇心に応えるため、構成文化財の解説内容を詳しく記載し、ストーリーにおける位置づけを分かりやすくするなど、情報の充実を図る。また、関連商品の購入意欲を持つ来訪者の利便性向上のため、関係商品の情報をより詳しいものにし、店舗が持つホームページ等の関係リンク先を増やすなど、内容を充実させる。	協議会
②	ホームページの多言語化拡充	インバウンド観光の本格回復に備え、現在は構成文化財の解説内容など一部コンテンツにとどまっている多言語表示をホームページ全体に拡充させる。	協議会
③	オンラインマップへの構成文化財・関係店舗情報の掲載	オンラインマップ等に構成文化財の位置情報を積極的に追加し、利用者の目に留まるようにするとともに、Web 情報管理ツールに、構成文化財の基本情報・写真・特色等を掲載し、Web 検索およびマップで検索した利用者の利便性を向上させるほか、ホームページへの誘導を行う。また、関連商品を販売する店舗に対して、オンラインマップへ自社店舗の情報を掲載するよう働きかける。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	ウェブサイトのページビュー		47,720 件
2021			41,319 件
2022			49,444 件
2023	同上		49,500 件
2024	同上		51,000 件
2025	同上		53,000 件
事業費	2023 年度 : 0 千円	2024 年度 : 800 千円	2025 年度 : 800 千円
継続に向けた事業設計	日本遺産ストーリーや構成市町の魅力を発信するという協議会としての事業であることから、構成市町及び熊本県の負担金をもとに取組みを継続していく。		

(事業番号7-B)

事業名	ホームページ、SNS や動画による情報発信		
概要	日本遺産のストーリーに関する情報を取得できるように、流域で開催されるイベントや旬の情報、構成文化財の紹介などを、適宜、ホームページや SNS、動画共有サイトにより発信する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ホームページや SNS を活用したイベントや旬の情報発信	域外の方や来訪者に菊池川流域への関心を持ち続けてもらい・リピーターとなってもらえるよう、また、既に関心を持ってもらっている層を飽きさせないようにするため、流域で開催されるイベントや旬の情報などを、適宜、ホームページや SNS により発信する。	協議会 玉名観光協会
②	旅番組風日本遺産構成文化財紹介動画制作・発信	旅人に扮した職員が自転車で構成文化財を訪ね、現地で学芸員から日本遺産ストーリーにおける位置づけやその価値について説明を受ける旅番組風の動画を作成し、動画共有サイトで発信する。紹介する構成文化財の選定にあたっては、「につぼん縦断 こころ旅」(NHK)のように、日本遺産のストーリーや構成文化財にまつわるお手紙を一般に募集することも検討する。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020			127 回 —
2021	更新回数・投稿数 エンゲージメント率		92 回 16.8%
2022			131 回 13.7%
2023	同上		200 回 17%
2024	同上		200 回 18%
2025	同上		200 回 19%
事業費	2023 年度：805 千円 2024 年度：805 千円 2025 年度：805 千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産ストーリーや構成市町の魅力を発信するという協議会としての事業であることから、構成市町及び熊本県の負担金をもとに取組みを継続していく。		

(事業番号7-C)

事業名	紹介資料設置による情報発信・他地域や関連団体と連携した取組み		
概要	地域内外の人々が来訪する各種イベント等開催の際に、のぼり旗、リーフレット等の紹介資料設置により日本遺産の情報発信を行う。また、県内他地域や関連団体と連携した取組みを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	のぼり旗、リーフレット等の紹介資料設置による情報発信	日本遺産に興味を持ってもらい来訪につなげるため、地域内外の人々が来訪する各種イベント等開催の際に、のぼり旗、リーフレット等の設置により日本遺産の情報発信を行う。	協議会 民間事業者
②	日本遺産サミットにおけるPR	日本遺産に興味を持ってもらい来訪につなげるため、日本遺産サミットに参加し、出展ブースを工夫してより多くの来場者を引き込み、情報発信を行うとともに、旅行者等とのネットワークの構築を図り、販路拡大や認知度向上を図る。	協議会
③	県内他地域や関連団体と連携した取組み	構成文化財等を活用した新たな魅力創出を図るため、県内の他の日本遺産地域や、米や日本酒、古墳、かんがい施設など、ストーリーや構成文化財に関連性のある地域と、企画展など連携した取組みを行う。	協議会 民間事業者
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020	紹介資料等によるPR回数 連携事業の実施回数		—
2021			3回
2022			3回
2023	同上		5回
2024	同上		7回
2025	同上		10回
事業費	2023年度：300千円 2024年度：0千円 2025年度：0千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産ストーリーや構成市町の魅力を発信するという協議会としての事業であることから、構成市町及び熊本県の負担金をベースに取組みを継続していく。出展費用のかからないイベントに多く出展するなど、事業費をかけずに行うことを模索していく。		
(事業番号7-D)			
事業名	日本遺産フォトコンテスト		
概要	日本遺産のストーリーに関する情報を効果的に発信できるよう、構成文化財や日本遺産のストーリーを対象としたフォトコンテストを行い、入賞作品を活用した効果的な情報発信を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体

①	日本遺産フォトコンテスト	日本遺産のストーリーや構成文化財に関心を持ってもらうきっかけとして、構成文化財や日本遺産のストーリーを対象とし、新たな魅力を発見してもらうフォトコンテストを行う。フォトコンテスト入賞作品は、カレンダーの制作、作品展、ホームページやパンフレットでの利用等に活用し、効果的な情報発信を行う。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020			—
2021			—
2022			—
2023	コンテスト応募数		100 件
2024	同上		120 件
2025	同上		150 件
事業費	2023 年度：1,210 千円 2024 年度：600 千円 2025 年度：600 千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産ストーリーや構成市町の魅力を発信するという協議会としての事業であることから、構成市町及び熊本県の負担金をもとに取組みを継続していく。フォトコンテストについては、費用対効果等も分析し、SNS を主としたものに移行することも含め、効果的な方法を検討する。		